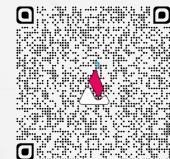




Dev-sumeरコンピュテーションナルデザイナー のための15の原則



1. ツールは中立ではない

すべてのソフトウェアは、仕事がどのように行われるべきかについての仮定を埋め込んでいる。ツールを無批判に受け入れると、その仮定を受け入れることになる—残業や生産性に関する有害なものも含めて。自分で構築すれば、自分の価値観をコード化する：効率性、人間性、時間への敬意。

2. デザイナーとツール製作者の境界は人工的なもの

この分離は、ツールが工場を必要とした産業時代には意味があった。ツールが思考を必要とするコンピュテーションナル時代には意味がない。優れたデザイナーにする論理的思考は、ツールを構築する能力も与える。

3. ツールを構築することはデザインリサーチである

ツールを構築するとき、問題についての思考を形式化することを余儀なくされる。この明確さは、ツールを使用していないときでも、より優れたデザイナーにする。問題解決者になる前に問題作成者である必要がある—深く理解し、そしてエレガントに解決する。

4. ツールではなく、問題から始める

「このソフトウェアは何ができるか？」ではなく「この問題は何を必要としているか？」と問う。そして、そのニーズに対応するツールを構築する（または見つける、または修正する）。ツールはビジョンに仕え、その逆ではない。

5. 思考ではなく、苦役を自動化する

退屈で反復的で魂を押しつぶすような作業を排除するツールを構築し、創造的で戦略的で意味のある思考に集中できるようにする。自分の代わりに考えるツールを構築するのではなく、考える時間を与えるツールを構築する。

6. ツールを共有可能にする

知識は共有されることで成長する。カスタムコンポーネント、スクリプト、ワークフローはコミュニティへの贈り物だ。共有しよう。文書化しよう。他の人があなたの仕事の上に構築できるようにしよう。これを奨励するためにコモンズライセンス（Ladybug Toolsのように）を使用する。

7. 完璧なワークフローより不完全なツールを受け入れる

80%機能して数時間節約できるツールは、100%完璧だが数日かかり精神を押しつぶす手動プロセスよりも優れている。完璧は出荷の敵だ。理論ではなく実践で反復する。

8. 危険になるのに十分なことを学ぶ

ツールを構築するのにコンピュータサイエンスの博士号は必要ない。当面の問題を解決するのに十分なPython、C#、JavaScriptを学ぶ。深さは実践とともに来る。私はMATLABとC++で工学のアルゴリズムを学んだが、重要なのは論理構造—コンピュテーションナル思考であり、構文ではなかった。

9. 記念碑的ではなく、反復的に構築する

初日から完璧なツールを構築しようとしない。今日の問題を解決するものを構築する。明日それを改善する。理解とともに進化させる。（著者注：Ambrosinusツールキットはコンポーネントごと、問題ごとに成長した）。

10. ツールがメッセージである

ツールを共有するとき、コードだけを共有しているのではない。問題について考える方法を共有している。実演によって教えている。ツールは教育法だ—思考をどのように構造化するかを示す。

11. リーダーシップはテクノロジーとともに進化しなければならない

効果的なマネージャーは、各チームメンバーのユニークさを認識し評価する方法を知っているなければならない。普遍的なアプローチは存在しない。各専門家は才能を表現する独自の方法、特定の能力、プロジェクトを読み解く独自の鍵を持っている。リーダーの真の能力は、これらの異なる楽器を調和のとれたデザイン交響曲に調律する方法を知ることにある。

12. 人間の時間を断固として守る

時間は決して取り戻せない唯一のリソースだ。時間を節約するツールは効率性だけの問題ではない—尊厳の問題だ。家族との夜、休息のための週末、反省のための朝に関わる。仕事のために人生を犠牲にすることを正常化してはならない。

13. 創造性のために分野を組み合わせる

組み合わせの創造性は、多くの人々や多くの操作環境との相互作用から生まれる。工学+建築。プログラミング+デザイン。環境科学+パラメトリックツール。AI+人間の判断。交差点にイノベーションが存在する。

14. AI時代において人間であり続ける

人工知能の台頭により、いくつかの観察は不明瞭になったり忘れられたりする一方、他のものは検証されるかもしれない。この文化的不確実性の時期において、人間的要素を忘れないことが不可欠だ。建築家とエンジニアは、AEC業界のテクノクラート化の中で最後の知識人の一人と考えられており、生産性を超えた反省、観察、方向性を提供できる。

15. 情熱と好奇心を育てる

情熱は仕事を天職に変える内なる炎であり、他の人が想像していない解決策を追求するために夜明けに起きさせるものだ。好奇心は「もしも？」「なぜダメなの？」とささやく火花—未知の領域を探索し、遠く離れたアイデア間の予期しない繋がりを見つけるように駆り立てるエンジンだ。情熱と好奇心が融合すると、非凡な相乗効果を生み出す。情熱は好奇心が提起する質問を追求する決意を提供し、好奇心は絶えず新しい課題と視点で情熱を養う。一緒になって、継続的に成長し、自分を再発明し、重要な痕跡を残すことができる—スタジオ、会社、分野、または世界で。これらの資質には年齢制限がない。生涯を通じて育てることができる贈り物であり、毎日を発見の機会に、すべての課題を成長の機会に変える。それらは人生の塩—すべての経験をより豊かにし、限界を超え、他の人が不可能と呼ぶものを達成するように駆り立てるものだ。